

第4期加西市教育振興基本計画（案）パブリックコメントの実施結果

該当箇所	ご意見	回答
1 目次	<p>第4期計画の注記にある「検証については、毎年実施している評価を活用する」という説明は、計画本文から「現状・課題・目標・検証」という体系的な構造が削除されたことに対する代替説明と理解します。</p> <p>しかし、計画の実効性を確保し、市民への説明責任を果たすためには、この「毎年実施している評価」が具体的に「何を検証するのか」という視点が不可欠です。</p> <p>第3期計画では「成果・課題」が明確に整理されていましたが、第4期案ではこの検証の視点が不明瞭なため、市民は「何がどう改善されたのか」というPDCAサイクルの核心を追跡できません。</p> <p>計画の客觀性と透明性を担保するため、「毎年実施している評価」の具体的な内容（現状・課題・目標との対照検証の視点）を計画本文に明記するか、または「検証」の項目を復活させることを求める。</p>	<p>本計画では、年度ごとに重点的に行う取組（アクション）をまとめた「教育の重点（アクションプラン）」を作成し、各年度末に実施する「点検評価」を組み込むことによって、評価の仕組みや対象を明確にすることができます。PDCAを回すための具体的な方法は以下の通りです。</p> <p>(1) 各年度の「教育の重点」に、目標と取組（アクション）を示します。（PD） 点検評価を行うためのループリック（達成度を評価するための評価基準表）も事前に作成します。</p> <p>(2) 個々の取組をループリックに基づいて評価し次年度の計画に反映します。（CA）</p> <p>(3) 重要でなくなった取組、重要な取組があれば入れ替えます。 このように、変化の激しい時代に柔軟に対応できるよう本市独自のアジャイル型の評価を行います。</p> <p>「第4期教育振興基本計画」「教育の重点」「点検評価」はすべてホームページに掲載します。さらに「教育の重点」については、こども園・小学校・中学校等の保護者には全員配布するとともに、公民館等の施設にも置き、誰でも持ち帰って見ることができます。</p>
2 p 1	<p>第3期計画では「現状・課題・目標・検証」が体系的に整理されていましたが、第4期案ではこれらが削除されており、計画として必要な構造が成立していません。</p> <p>このままでは、何を問題とし、どこを目指し、どう到達するのかが不明確です。</p> <p>第3期で整理されていた構造（現状→課題→目標→評価）を踏まえた上で、第4期としての方向性を明記してください。</p>	<p>教育振興基本計画の構造は法的に規定はされていないことから（教育基本法第17条2項）、本市の第4期教育振興基本計画（以後「計画」と記述します）では、特に構造にはこだわらず、本市の現状および課題をもとに、計画の内容を明確かつ端的に伝えることを目的に、本市の教育計画の大きな枠組みとして策定しております。</p> <p>また、第3期の計画では、計画中になかった学校再編が開始され、学校教育においては、学習指導要領において5年間での到達目標といった概念がないことなどから、5年後の目標を設定した計画とはしていません。</p> <p>ただ、本市の教育における枠組みを、3つの基本方針と3つの基本施策の、3×3のマトリックスとして示し、それぞれのセルごとに「取組テーマ」を設定して具体的な取組を実践する計画は、計画のための計画にならなければならない本市独自の手法とご理解ください。</p>

（参考）教育基本法第17条2項

「地方公共団体は、前項（国）の計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるようにしなければならない」

3	p 1～2	<p>教育大綱は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3に定める「地域の実情に応じた総合施策」であるにもかかわらず、本案では加西市の歴史・文化・教育風土、そしてSTEAM・探究などの実践が理念にほとんど反映されていません。</p> <p>加西市独自の教育理念と実践を示すことが、教育大綱として不可欠です。</p> <p>地域の実情を踏まえた理念形成をお願いします。</p>	<p>本計画では、本市独自の教育理念として、第3期教育振興基本計画を継承し、『郷土を愛し豊かに未来を拓く人づくり』を掲げております。</p> <p>そのための教育目標として、</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 挑戦 (Challenge)、協働 (Collaborate)、創造 (Create) できる「3C次世代型人材」の育成 (2) 他者を尊重しつつ自己実現を目指し生涯学び続ける人づくり (3) ふるさと加西を愛し、明日の加西を豊かに切り拓く人づくり <p>を掲げ、その実現に向けて、3つの基本方針と3つの基本施策をマトリックスに組み合わせて実践する本計画は、本市の実情や教育風土に合致した本市独自の総合的な教育施策となっており、教育大綱として位置づけることが決定されております。</p> <p>また、本計画には加西市の歴史・文化、そしてSTEAM・探究などに関する教育についても記述されております。</p>
4	p 2	<p>第4期計画では「実施状況を評価しその結果を市民の皆様に公表します」と明記されています。市民への情報公開の姿勢は高く評価しますが、この「毎年実施している評価」を計画の「検証」として活用するためには、その評価項目と検証の視点が事前に明確である必要があります。</p> <p>現在の記述のままでは、「何を評価したか」が市民に伝わらず、公表された結果を市民が計画の進捗と照らし合わせて判断することが困難になります。</p> <p>誠実な説明責任を果たすためにも、「毎年実施している評価」が具体的にどのような指標や視点に基づいて行われ、どのように目標達成度を検証するのかを計画上で明確にしてください。</p>	1に同じです。
5	p 3～4	<p>「3C次世代型人材」の育成のために掲げられた「加西の教育3本の矢」ですが、「体験の充実」「活動の創出」といった一般的な表現に留まっており、たとえば加西市がこれまで取り組んできたSTEAM教育の本質である「デザイン思考を基盤とした価値創造型の学び」などが反映されていません。</p> <p>加西市は県内でも珍しく、STEAM教育と探究を体系的に進めてきた自治体であり、それ自体が地域固有の教育資産です。</p> <p>加西市が独自で積上げてきた実践を踏まえた再定義を行い、活動が目的化しないよう、挑戦、協働や、価値創造の視点の明記を求めます。</p>	<p>「挑戦、協働、創造」は、p3教育目標（1）で謳っております。</p> <p>体験については、「体験の充実」「活動の創出」といった表現をして重要性を示しておりますが本計画の性質上、具体例は示しておりません。</p> <p>STEAMについては、「加西STEAM」として記述しております。「加西STEAM」では、各学校が、「課題解決能力や非認知能力を育成する」という目的をもって、主体的に活動を行う予定です。</p>

6	p 1 3	<p>第3期では計画策定にあたり社会変化を先読みしていましたが、第4期案ではAIがすでに日常的に存在するにもかかわらず、教育におけるAIとの向き合い方が記載されていません。</p> <p>加西市では既に教職員のAI活用や授業改善が始まっています、これは地域の実情そのものです。</p> <p>加速度的に変化が激しくなる現状に際し、第4期案では、AIに関する記述がp 1 3該当箇所にも、その他の章にも一切見当たりません。</p> <p>今後5年間の教育計画として、AIとの学習関係（学習支援・思考支援・内省支援等）の方向性を明記してください。</p>	<p>AIの活用や支援等につきましては、教育DXの推進、ICT活用の一貫として含意しておりますので、個別には記述しておりませんが、今後、具体的なアクションプランとして、策定する可能性は充分にあります。</p>
7	p 1 4	<p>体験活動が示されていますが、学びが成立するために必要な「体験→意味づけ→行動変容」の構造が記載されていません。</p> <p>意味づけの欠如は、活動が単発化し「活動あって学びなし」を招く恐れがあります。</p> <p>加西市がこれまで育んできた、体験を挑戦、協働や、価値創造へ接続する構造を継承し、学習プロセスとして明記することを求めます。</p>	<p>「体験」「意味づけ」「行動変容」という学びが成立するプロセスは重要であると認識しておりますが、その構造パターンは、人それぞれであり、それはすべて子供の内面で起こること、個人の認知の中で起こることであるため、市のドキュメントとしてモデルを示すということには馴染まないと考えます。本計画は本市の教育計画の大きな枠組みとして策定しており、体験活動の構造やどのように体験活動を行うかまでは記述しておりませんが、各児童生徒がそういった行動変容を起こしていくような取組をアクションプランを立て、支援していきます。</p>
8	その他	<p>本案は構成自体は整理されているものの、計画として必要な構造（現状→課題→目標→評価）と、加西市が長年積み上げてきた教育理念や実践（地域の実情）が十分に反映されていません。</p> <p>本案は多くの施策が列挙されていますが、課題と目標の関係が不明瞭であるため、施策体系としての整合性が見えにくくなっています。</p> <p>また第3期で整理された理念や教育観が、第4期案に十分に継承されておらず、計画の連続性が損なわれています。</p> <p>第3期の蓄積および現場で進むSTEAM・探究・AI活用の実践を踏まえ、加西市独自の教育理念を明確にし、第4期に適切に継承されることを期待します。</p>	<p>本計画では、計画の内容を明確かつ端的に伝えることを目的として策定しております。また、記述内容はできるだけ将来の具体的な活動を阻害しないように大きな枠組みで表現しており、第3期との整合性や理念を継承しないということではなく、STEAM、探究についても記述いたしております。また、AIにつきましても、教育DXの推進、ICT活用の一貫として含意しております。</p> <p>本市独自の教育理念は、第3期教育振興基本計画を継承し。「『郷土を愛し豊かに未来を拓く人づくり』と明記いたしております。また、本市独自の教育施策として、「加西BASE」、「加西STEAM」、「加西GLOBAL」を実践する『加西の教育3本の矢』も明記いたしております。</p>

9	p 1 4	⑤と⑥について、いずれも「対応」とありますが、他の部署も含め、項目を並べて比較すると、ここだけ対症療法的な項目名となっています。例えば、「○○対応の充実」などが考えられます。	タイトルを「特別な支援を必要とする児童生徒への対応の充実」に変更します。それに伴い、p 6 の（1）⑤も同様に変更します。
10	p 1 4	⑥の2つ目について、「～を整備します。」とありますが、すでに整備されていませんか。例えば「～の環境を充実させます。」のような表現にしませんか。	「不登校児童生徒が孤立しないように、教育支援センター、校内フリースクールや支援ルームでの支援の充実を図ります。」に変更します。
11	p 1 4～ 1 5	p 1 4 「⑦小中連携によるキャリア教育の充実」と p 1 5 「⑤学校間連携による魅力的な教育活動の推進」は内容的に被っていますか。（p 1 3 の④と p 1 4 の②も同じようなものですが）	⑤学校間連携について、小中連携に限らず市内の高等学校も含めた広い意味での学校間連携を意味しており、目的も広義の活動を意味しています。 (p 1 3 の④は加西BASEとしての学習基盤の育成に係るICT機器の活用を意味し、p 1 4 の②は加西STEAMとして探究的な学びのためのICT活用を意味しています。)
12	p 1 5	ジョリーフォニックス等、イングリッシュミーツとありますが、大綱等（5年計画）で、具体名はあまり掲載しない方が良いかと思います。具体は「指導の重点」で記載できます。	イングリッシュミーツについては、削除しますが、「ジョリーフォニックス等」は英語教育における一般語なので、そのまま残します。
13	p 1 6	①研修の充実の中で、これだけ「研修観の転換」と言われながら、大きな方向性として示すことができていないのは残念です。	「研修観の転換」とは、「与えられて学ぶ受動的な研修」から「自ら学ぶ能動的な研修」への転換であると考えます。行政としては、それも含めて資質能力を高める取組として、集約しております。
14	p 1 6	②ワーク・ライフバランス→ワーク・ライフ・バランス	修正します。
15	p 1 7	④相談体制の構築とありますが、見出しに合わせると相談体制の充実の方が適切かと思います。	「相談体制を構築し」を「相談体制を充実させ」に変更します。

16	p 1 7	③体育館等の空調設備は設置については、避難所としての視点も教育委員会としては入れておいても良いと思います。	児童生徒の運動中の熱中症リスクを減らし、安全に学習活動ができるよう、すべての中学校の体育館等に空調設備を整備します。また、災害発生時の指定避難所としての役割を考慮し、避難者の健康と命を守るための防災機能の強化を図ります。（1文を付け加えます）
17	p 1 7	②生徒にとって学びやすく～、教職員にとって働きやすく～の文章が口語調です。「生徒にとっては～、また～、そして～」とし、生徒も教職員も地域の方も当たり前に学ぶ場所としての学校である願いを込めた文章にしていただきたいです。今の文章は、保護者や地域の方の訪れるという「ソト」感を感じます。18ページの地域のウェルビーイングなどで記載のある「地域全体で学校の運営や児童生徒の成長を支えていくこと、19ページの生涯学習機会との整合性も検討いただきたいところです。	「生徒にとっては学びやすく、教職員にとっては働きやすく、保護者・地域の方にとって集いやすい、機能的で魅力ある学校をつくります。」に改めます。
18	p 1 8	①働きやすく～の項ですが、教職員の働きがいを考えると、学校の管理職のマネジメント力の向上も考えなくて良いでしょうか。	「・校長等のマネジメント力の向上を図り、学校運営を効率的・組織的に進めることで、ワーク・ライフ・バランスの一層の推進を図ります。」を2つ目の項目に加筆します。
19	p 1 8	②コミスクと③保護者・地域の項目は分ける必要がありますか。	②は「コミュニティ・スクールの推進」について述べており、③は「教育の質の向上」の視点から述べていますので、二つに分けています。
20	p 1 9	図書館の記載がp 1 9の③のみですか？STEAMやGLOBALでも、また実際、学校教育とも絡んでいただいているが、縦割りで作成するのは仕方がないとはいえ、内容の調整は必要だと思います。	図書館の取組テーマとしまして、p 1 9の他、p 2 1では「図書館の多様な利用体制の充実」またp 2 2では「市民・地域との共感的・協調的な関係づくり」について内容を掲載いたしております。また、子供たちの読書活動を充実させるために、園や学校と連携しながら事業を進めます。
21	p 1 6	学校施設開放については、社会体育の視点から必要なことと捉えていますが、デジタル化や学校外で担うことも含めた取組は5年間はなしでしょうか。文部科学省の資料等でも、「学校以外が実施主体」となっていますが、いかがでしょうか。	教育振興基本計画には記述しませんが、今後、学校の統合で閉校になる学校施設から順に、全学校で施設利用の予約・空き状況の確認などにSNSを活用できるようデジタル化を進めています。
22	p 1 6	同様に、学校徴収金の公会計化についても、ここ5年間の動きはないのでしょうか。ちなみに掲載するのであれば、16ページの業務のデジタル化に入ると思います。	p 1 6のII-2 (1) ②の文中に、「学校徴収金システムの導入」を加筆します

23	その他	<p>教育振興基本計画はここ5年間の指針となるものです。逆に言えば、どこのレベルまで教育委員会が5年後の姿を描くことができるか、当事者（市民（もちろん生徒・教職員も含む））も同じ景色を見ることができるかだと思います。次回はその案をつくる際に、これから時代を担う教職員（30歳前後）や就学前の子供のいる保護者等を検討会議（ワークショップなど）に入れていくことも、検討いただけたらと思います。そうすることで、当事者性は高まると考えます。すでに入られていれば申し訳ございません。よろしくお願いします。</p>	<p>次回策定時に、いただいたご意見を検討させていただきます。</p>
24	その他	<p>1. 計画策定プロセスに関する懸念（詳細） (1) 市民・教員・地域を巻き込んだ策定体制の不在 文科省のガイドラインでは、教育振興基本計画の策定にあたり、学校関係者、保護者、PTA、地域住民、産業界、NPO、有識者等を含む懇談会や策定委員会の設置が強く推奨されています。しかし、本計画では策定委員会の設置記録や議事録が示されておらず、「誰が、どのような立場で、どのような意図のもと策定した計画なのか」が不透明なままです。 特に、地域の教育現場を最もよく知る教員・保育者の声がどの程度反映されたのか全く読み取れません。</p>	<p>本計画を策定する審議会の開催記録や会議内容につきましては、本計画の最終頁に記載する予定です。その他詳細についてはホームページに掲載を行います。</p>
25	その他	<p>(2) 教育委員会の合議制が十分に機能したのか不透明 地方教育行政法では、教育行政の基本的指針は「教育委員会（5名の合議体）」が決定する仕組みです。 （この直後の文章は事実誤認がありますので、削除しました。） 教育行政の根幹である“合議制による民主的統制”が弱まることは、計画の正当性・透明性の両面で重大な問題です。</p>	<p>本計画は教育委員会の各課から立案した素案をもとに審議会の委員や学校現場の職員、社会教育団体等の多くの方々の意見を反映しながら、策定作業を進めております。また、会議の合議に基づき意思決定を行っています。</p>
26	その他	<p>(3) 策定プロセスの不透明さが、施策の総花化につながっている 多様な当事者の声が反映されないまま行政内部のみで計画を作成すると、現場の実情と乖離した「総花的計画」が生まれやすく、本計画に見られる『過剰な施策例挙』はその典型例です。</p>	<p>教育振興基本計画は加西市における教育の総合的な計画です。取り扱う項目は広範囲に及びますが、策定に当たっては必要最小限にまとめております。</p>

27	その他	<p>(1) 第3期計画の成果・課題・反省が計画書に記載されていない 計画書では「前期計画の現状と課題・検証の章を削除した」と明記されていますが、これは行政計画として重大な欠陥です。 通常の自治体では、“前期5年間の成果報告・未達の原因分析・改善点の整理”を行うことで計画の信頼性を高めますが、今回の計画はその根幹が丸ごと欠落しています。</p>	<p>前期5年間の成果報告・未達の原因分析・改善点の整理については、各年度末に実施する「点検評価」を実施しているところです。毎年、評価報告書をまとめ、評価委員会の承認後、議会へ報告、公表を行っておりますので、毎年の点検評価を前計画の評価・検証に代えています。なお、本計画の評価も今後の点検評価と一体的な運用を図ります。</p>
28	その他	<p>(2) KPI(成果指標)と達成状況の不在 教育行政の妥当性を評価するには、以下の項目が不可欠です： - 学力テスト結果の推移 - 不登校の推移 - 特別支援ニーズの変化 - 地域参画イベントの実施数と参加率 - 教員の業務時間の変化 これらの指標が示されておらず、エビデンスに基づく政策改善ができない構造となっています。</p>	<p>本計画の運用・評価については、「教育の重点（アクションプラン）」と「点検評価」を一体的に運用します。評価項目については別途点検評価に記載する予定です。</p>
29	その他	<p>(3) 現場・保護者・地域の“実感”が評価に反映されていない 施策の評価は数値だけでは不十分であり、以下の当事者の声が不可欠です： - 教員：働き方改革が実際に進んだのか、負担は増えたのか - 保護者：教育に対する安心感・信頼感の変化 - 子ども：自己肯定感・学ぶ楽しさの実感 - 地域：学校との距離感や参画意識の変化 しかし、本計画にはこれらの評価が一切含まれておらず、計画の“実態と手応え”が見えません。</p>	28に同じ
30	その他	<p>(1) 施策の量が過大で、現場のキャパシティを完全に超えている 本計画は以下のような構造になっています： - 基本方針：3本 - 基本施策：3本 - 取組テーマ：多数 - その下に具体施策：※※100項目以上※※ しかし、これらには「優先順位」が示されていません。つまり、現場にとっては“この100項目すべてを同時にやれ”というメッセージに等しい。 現場の教員はすでに長時間残業が常態化しており、さらに100項目の新規タスクを課すことは不可能です。</p>	26に同じ なお、前計画よりも本計画の方が項目数は少なくなっています。

31	その他	<p>(2) “加西らしさ”が埋没し、戦略性が見えない 加西BASE、加西STEAM、加西GLOBAL、ウェルビーイングなど概念が乱立しています”加西らしさ”を包含するものであり、独自のモデルとして掲げております。</p> <p>が、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源（農業、自然、企業）との接続 ・前期の成果との連続性 ・優先すべき教育課題との整合性 <p>が整理されておらず、“加西独自の教育モデル”が見えにくい状況です。</p>
32	その他	<p>(3) 資源配分と実行力を踏まえた“選択と集中”が不足している 実効性のある計画に必要なのは、施策を“すべて書くこと”ではなく、“実行できるよう に絞ること”です。 しかし本計画には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度別重点施策 ・リソースの集中投下領域 ・優先順位の明示 <p>がなく、行政計画としての戦略性に欠けています。</p> <p>本計画では、年度ごとに重点的に行う取組（アクション）をまとめた「教育の重点（アクションプラン）」を作成することで、年度別の重点施策の優先度を明記します。</p>